

## 遠隔操作ロボット「オリヒメ」

# 不登校児童支援に効果

米子で検証委

遠隔操作ロボット「オリヒメ」の効果検証委員会が14日、米子市西町の鳥取大医学部付属病院であった。同市立就將小学校では、オリヒメを不登校傾向の児童の学習支援に活用

しており、欠席日数が減少したことが報告された。

オリヒメはオリイ研究所（東京都）が開発した人型ロボットで、タブレットで遠隔操作することで、授業

参加や会話ができる。県と日本財団（同）の支援プロジェクトの一環で民間団体「つなぐプロジェクト」(伯耆町大殿、末広町、今川由紀子代表)が仲介し、同小学校と米子養護学校、鳥取養護学校に1台ずつ貸し出されている。

就將小は鳥取大病院内の院内学級を管轄しており、当初は、学校と院内学級との橋渡し役としてオリヒメを導入。その他の活用策を模索する中で、不登校傾向

オリヒメの活用について意見交換する出席者



の児童1人の支援に用いたところ、欠席日数が2017年度の112日から18年度は14日まで減った。オリヒメを介して授業に出席した成果という。

就將小の上村一也校長は「可能性を考えながらの活用だった」と振り返った。今川代表は「オリヒメによる卒業後の支援も考えている。一生使えるものであってほしい」と話した。

(狩野樹理)